



今回のホストファミリーボランティアは4回目となりますが約10年ぶりで、以前は別の団体からの受け入れでしたので、今回は滞在期間のスケジュールが早朝だったり、仕事をしながら充分におもてなしができるのかどうか緊張をしながら準備をすすめました。

4度目の岡崎訪問というイングマリーさんは高校生お2人の引率者であり、岡崎市とウッデバラ市の交流の橋渡し、その他多くの任務を担っていらっしゃるキャリアウーマン。私と年齢が近く、ビールや珈琲、ジャズ、80'sの音楽、スポーツがお好きで趣味が完全一致！朝食は和食を希望され、珈琲を毎朝3杯飲まれることは事前のメール交換でチェック済でした。その他お互いの家族の状況などWhatsAppで写真など交換もしていたので、岡崎駅でのお迎え時には初対面とは思えませんでした。

7日間のうち家族と過ごす4日間は8時の朝食後と夕方に必ずウォーキングをされ、庭のテーブルとチェアで読書される姿はとても知的で素敵でした。いろいろ心配がありましたが、毎晩一緒にビールを飲み歓談。多くの国での紛争問題、物価高騰の問題、SNSやスマホが便利になった反面、人と関わるのが苦手な若者増加の問題、まさにその年代の互いの同い年の娘の悩みなど話し、毎晩盛り上がりました。

自然がお好きということで、近場でハイキングなど予定しておりましたが、まずお土産を買っておきたいとのことで、ららぽーと安城へ2回、近くのリサイクルショップで着物など購入。今年お生まれになったお孫さんやお嫁さん、娘さん、甥っ子さんにお土産を購入され、ご家族にとっても優しいご様子がうかがえました。

また、リブラでの英会話イベントに大勢の英語学習者の方が集まる日と重なったので、会場で岡崎市との姉妹都市としての活動などご紹介等していただきました。また、町内に大きいお寺がありご興味があるとのことで、住職にお願いをし、おつとめの日に参加させていただきました。

いろいろ予定がたくさんで最終日になってしまい、市役所へ送り届ける前に私の好きな場所、石の野外ミュージアム恩賜苑にお連れしました。自然の中での散策をしたかったんですが、悪天候後で整備上の問題があり散策コースは閉鎖されており、美術博物館前の恩師池での散策となりました。次回岡崎へお越しの際は是非ハイキングしたいと仰ってみえました。

とにかくアクティブでスタイル抜群、凛としてカッコいいイングマリーさんでした。81歳の両親は英語が話せませんが積極的に書道や茶道を教えたり、ウォーキングしたり交流を楽しみました。また二男22歳が英語をまあまあ話せることを今回初めて知りました（笑）

夕食では手まり寿司、コロッケ、春巻きなど一緒に作りました。料理好きのイングマリーさんはきっと帰国されてから完璧に作られると思います。また、納豆やオクラなど、ネバネバ系も美味しい美味しいと召し上がっていたのには驚きました。ブロンドの髪で日本語を話さないこと以外はまるで日本人でした。（笑）

帰国の途に就かれ、使用された部屋でお礼のお手紙を見つけ、感動で涙がでました。両親も大変淋しがっております。父が「マリちゃん」と呼んでいたのには少々戸惑いました。（笑）

最後に、職場の上司と同僚には、休みをいただいたり、出勤時間を遅らすなど理解いただき感謝です。OIAの皆様には良い機会をいただき感謝です。ありがとうございました。